校訓 希望 進取 向学

松元中学校だより

令　和　５　年
１０月２６日発行

「～のために何ができるのか？」

校長　木原　敏行

第35代アメリカ合衆国大統領「ジョン・F・ケネディ」は1961年1月20日、就任演説を行い、その演説の中で最も有名な部分が次の件（くだり）です。ケネディは、米国民に自己利益を超えて、自分の国のために働くよう促し、「あなたの国があなたのために何ができるかを問うのではなく、あなたがあなたの国のために何ができるのかを問うてほしい。（Ask not what your country can do for you、ask what you can do for your country.）」と述べました。

今年度も残り半分を切りました。そして、まもなく第78代生徒会が発足し、学級・学年の組織も代わります。この機会に、上のケネディの言葉の「国」の部分を「学校」や「学年」・「学級」、あるいは「家庭」というあなたが属している組織や集団に置き換えて、「あなたが、あなたの組織のために何ができるのかを問うてほしい。」と思います。大きなことでなくていい、小さなことでいいのです。要は、誰か人のためにできることを考え、そして行動してほしいのです。そうすれば、いつかきっと自分自身の身にもいいことがあると思います。

さて、ケネディについては、小学生に人気の伝記物の本にもなっているので、読んだことがある人も多いかもしれません。選挙で選ばれた最も若い大統領（43歳）で、大統領在任中にはピッグス湾事件、キューバ危機、ベルリンの壁の建設、米ソの宇宙開発競争など、多くの歴史的事件に取り組みました。（それぞれの案件については調べてみてください。）その中の宇宙開発競争では、1961年5月25日の演説で、「10年以内に人間を月に着陸させ、安全に地球に帰還させる。」と宇宙開発の重要性を訴えました。実は、このときアメリカは、当時対立していた旧ソ連（ソビエト連邦構成共和国）に、有人宇宙飛行や世界初の人工衛星の打ち上げなどで遅れをとっていました。その挽回のために有人月面着陸ということを打ち出したのでした。いわゆる「アポロ計画」です。この計画でとても大きな事故を2度乗り越え、計6回の月面着陸に成功しています。しかし、ケネディが月への人間の往復を訴えた時、NASAの関係者でさえ、この公約実現の可能性を疑っていたということです。それでも、ケネディは、「我々が10年以内に月に行こうなどと決めたのは、それが容易だからではありません。むしろ困難だからです。この目標が、我々のもつ行動力や技術の最善といえるものを集結し、それがどれほどのものかを知るのに役立つこととなるからです。その挑戦こそ、我々が受けて立つことを望み、先延ばしすることを望まないものだからです。そして、これこそが、我々が勝ち取ろうと志すものであり、我々以外にとってもそうだからです。」と言っています。この時の決断により、ロケット技術や有人宇宙船開発に関連する技術の発展の中で、電子工学や遠隔通信、コンピュータ、信頼性向上のための統計的手法等の分野が大きく進化し、中には現代につながり、生かされていることが数多くあるといわれています。

また、ケネディは1963年11月にテキサス州ダラスで市中パレード中に暗殺されたことでも知られています。今年は、このケネディ大統領暗殺事件から60年にあたります。そして、この暗殺事件があったこの日、日米間で初めての衛星生中継が行われたのですが、そこで日本に飛び込んできた最初のニュースは、この事件のことだったのです。

【11月行事予定】

１日（水）生徒朝会
　　３年進路説明会・学年ＰＴＡ
　　市スクールカウンセラー来校
３日（金）文化の日
５日（日）テスト前部活動停止～12日
６日（月）拡大制服選定委員会
７日（火）芸術鑑賞教室
８日（水）全校朝会
９日（木）学年朝会　２年薬物乱用防止教室
　　市中学校音楽発表会（３年）
10日（金）期末テスト～13日
13日（月）市スクールカウンセラー来校
14日（火）２年松友戦
　　市スクールソーシャルワーカー来校
15日（水）１・２年教育相談～24日
　　３年三者面談～24日
　　生徒会引継式
17日（金）県スクールカウンセラー来校
21日（火）学級専門部会・学校専門委員会
23日（木）勤労感謝の日
27日（月）市スクールカウンセラー来校
28日（火）学年朝会
29日（水）避難訓練
30日（木）生徒朝会　南極氷贈呈式